

沖縄群島の両生爬虫類相（Ⅲ）

—渡嘉敷島・久米島—

当山昌直*

Preliminary Reports on the Herpetological Fauna of the Okinawa Islands,

Ryukyu Archipelago (Ⅲ)

Masanao TOYAMA

During March, 1971 and September, 1982, the author surveyed the herpetological fauna of Tokashiki-jima and Kume-jima of the Okinawa Islands, Ryukyu Archipelago. Seven species of amphibians and eighteen species of reptiles were found to occur on the islands. *Rana catesbeiana* has been introduced to these Islands. Distribution of *Rhacophorus viridis viridis* once recorded from Kume-jima Is., could not be confirmed by the author. *Gehyra mutilata* and *Eumeces barbouri* was newly recorded from these Islands. Some findings on the habitat of *Opisthotropis kikuzatoi* are noted meninoned.

沖縄島の西方海上には多くの小さい島が散在する。渡嘉敷島と久米島は、これらのうちで比較的大きい島である(Fig. 1)。両島の陸棲の両生爬虫類についてはこれまでいくつかの報告がある。ヘビ類については、高良(1962)が報告し、カエルやトカゲ類については、Johnson(1972)が久米島の両生爬虫類の調査結果の中で報告し、池原(1974a)が慶良間群島の目録を作成し、また池原(1974b)は久米島の脊椎動物調査の結果の中で報告している。しかしながら、両島の両生爬虫類相を解明するのに必要な調査は、充分になされたとはいがたい。

そこで、筆者は渡嘉敷島について1971年3月4～9日・1973年5月4～6日・1981年7月14～16日、久米島について1972年2月11～13日・1972年3月5～8日・1982年9月16～20日までの延べ6回に渡って、両生爬虫類の調査を行なった。この調査期間中に得られた資料に、沖縄県立博物館に保管されている標本資料を加え、更に、従来の研究報告をも検討することによって、渡嘉敷島と久米島の陸棲の両生爬虫類についてまとめてみた。

調査方法

現地調査は、昼・夜に渡って行なわれた。生息の確認は、原則として発見された個体を採集して標本として残し種名を確定することにより行なったが、採集できなかったものについては目撃のみによって記録した。筆者自身で確認できなかった種については、これまでの研究報告を検討し、採集された標本に基づいて記録され、琉球大学農学部風樹館標本室にその標本が残っているなど記録した根拠が明確なもののみを引用した。

(★とうやま まさなお 県立博物館学芸員)

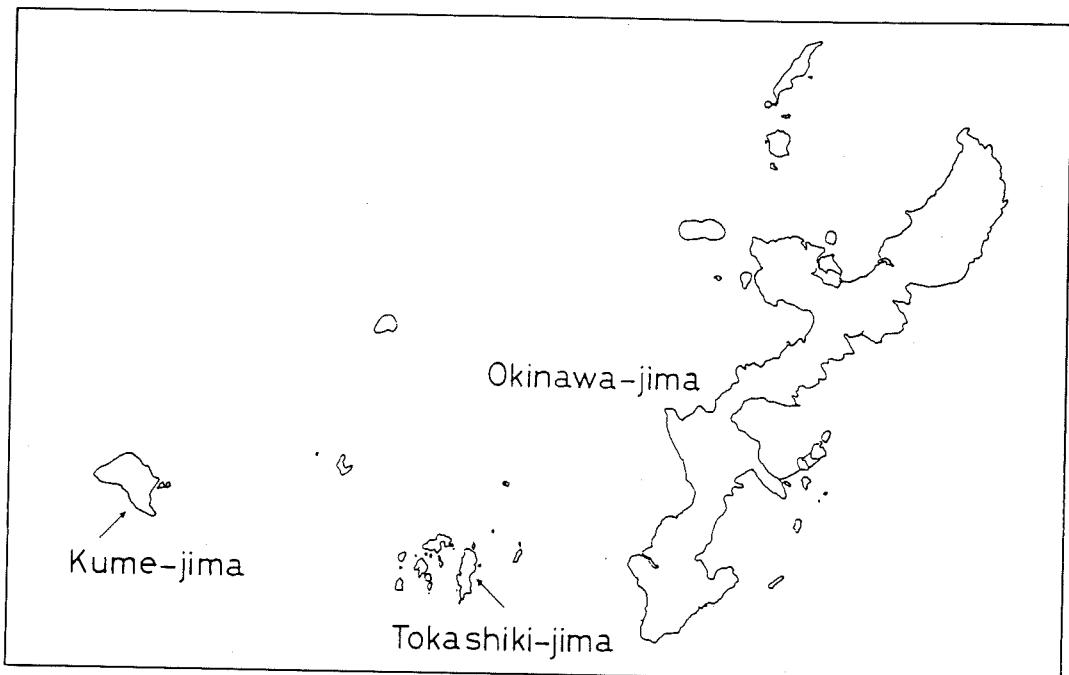


Fig. 1 Map of the Okinawa Islands, Ryukyu Archipelago.

調査結果

以下にこれまでの調査で採集及び目撃により確認された種類をあげる。採集された種類は、採集地：採集日付：採集者名（敬称略）：沖縄県立博物館標本番号（OPM H）が記されている。また、筆者自身で確認できなかったものは、高良（1962）、高良編（1972）から引用した。引用したものは、*の記号が付されている。

両生類 AMPHIBIA

サンショウウオ目 CAUDATA

イモリ科 Salamandridae

イボイモリ *Echinotriton andersoni* (BOULENGER, 1892)

渡嘉敷島、大谷林道：1983年5月28日；佐藤文保（以下佐藤と略す）；H 676.

轢死体が大谷林道の路上で拾われた。押し潰され変形しているが、トゲ状になった背面と黒色を呈する腹面とで本種と判断できた。

シリケンイモリ *Cynops ensicauda* (HALLOWELL, 1860)

渡嘉敷島：1973年5月5日；池原貞雄（以下池原と略す）；H 68.

：1980年10月24日；宮城邦治（以下宮城と略す）；H 597, 814-816.

カエル目 SALIENIA

アカガエル科 Ranidae

ヌマガエル *Rana limnocharis limnocharis* WIEGMANN, 1835

渡嘉敷島：1980年10月24日；宮城；H 817-819. : 1983年3月29日；佐藤；H 699-731.

渡嘉敷島、渡嘉敷：1981年7月15日；当山昌直（以下当山と略す）；H 432, 732, 733,

久米島, 具志川: 1977年4月1日; 田中聰(以下田中と略す); H 579,

久米島: 1973年2月25日; 採集者不明; H 206.

渡嘉敷島では、渡嘉敷部落の水田地帯に多くみられた。1982年の久米島調査では採集することができなかった。城間伴氏(私信)によると、1973年2月21日から25日までの間に採集された標本は、ちょうどそのころ行なわれた久米島の動物調査の際、池原貞雄・安部琢哉・城間伴の各氏によって採集されたものと推定される。

ウシガエル *Rana catesbeiana* SHAW, 1802

渡嘉敷島: 1971年5月; 伊沢恵美子(以下伊沢と略す); H 317

渡嘉敷島, 渡嘉敷: 1981年7月15日; 当山; H 434. : 1983年3月29日; 佐藤; H 667.

久米島: 1973年2月25日; 採集者不明; H 204, 205.

久米島, 白瀬川: 1982年9月19日; 当山; H 450, 781. : 1982年9月18日; 佐藤; H 788-790.

渡嘉敷島では、1971年に渡嘉敷部落に近い水田地帯に多くみられたが、そこにはヌマガエルも同じ場所に生息していた。1981年に再び調査した時も同じ場所で両種を確認した。阿波連部落では本種を確認していない。久米島における1972年2月の夜間調査では、儀間近くにある水田地帯では本種だけが確認された。1982年の調査では、久米島の水田地帯のほとんどがサトウキビ畑に変わっており、同じ場所で本種を確認できなかった。白瀬川のダムの上流の渓流でも本種が採集された。

ホルストガエル *Babina holsti* (BOULENGER, 1892)

渡嘉敷島: 1980年9月18日; 城間伴(以下城間と略す); H 342.

: 1979年7月26日; 佐藤; H 664. : 1983年3月29日; 佐藤; H 674.

: 1983年3月30日; 佐藤; H 675.

渡嘉敷島で採集された標本は体長8cmに満たない亜成体であるが、1981年7月15日の調査時に大谷林道にて体長10cm以上とみられる本種を目撃した。

アオガエル科 Rhacophoridae

ニホンカジカガエル *Buergeria japonica* (HALLOWELL, 1860)

渡嘉敷島: 1980年9月25日; 宮城; H 820. : 1983年3月29日; 佐藤; H 685-698.

渡嘉敷島, 大谷林道: 1981年7月15日; 当山; H 435, 734.

久米島: 1973年2月25日; 採集者不明; H 207.

久米島, 白瀬川: 1982年9月18日; 当山; H 454, 786.

ジムグリガエル科 Microhylidae

ヒメアマガエル *Microhyla ornata* (DUMERIL et BIBRON, 1841)

渡嘉敷島, 渡嘉敷: 1981年7月15日; 当山; H 433.

久米島, 白瀬川: 1982年9月18日(目撃)

久米島では白瀬川上流にある簡易水道の貯水池で本種のオタマジャクシを確認した。

爬虫類 REPTILIA

カメ目 TESTUDINATA

カメ科 Emydidae

リュウキュウヤマガメ *Geoemyda spengleri japonica* (FAN, 1931)

久米島：1953年10月15日；喜久里教達（以下
喜久里と略す）*

久米島，白瀬川：1982年9月18日（目撃）

渡嘉敷島では、調査中に目撃することはできなかったが、地元の人に聞いたところ本種は生息しているとのことであった。久米島では白瀬川上流部の渓流の調査中に3個体を目撃したが（Fig. 2）、天然記念物に指定されているので採集はしなかった。

トカゲ目 SQUAMATA

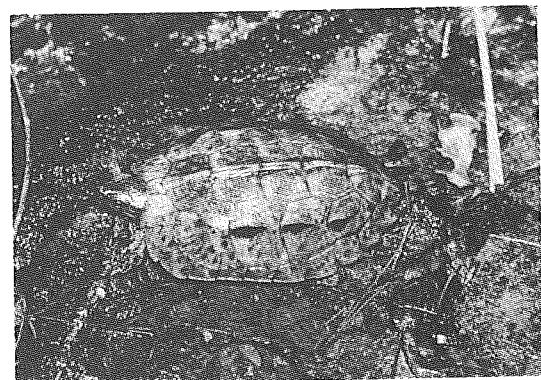


Fig. 2 *Geoemyda spengleri japonica* from Kume-jima Island.

ヤモリ科 Gekkonidae

ニホンヤモリ *Gekko japonicus* (DUMERIL et BIBRON, 1836)

渡嘉敷島：1971年3月9日；伊沢；H 44.

：1971年3月9日；上原幸得（以上上原と略す）；H 135.

渡嘉敷島，渡嘉敷：1973年5月4日；安部琢哉（以下安部と略す）；H 95.

：1973年5月4日；当山；H 45.

：1973年5月5日；当山；H 46, 140.

：1973年5月6日；当山；H 15, 48.

久米島，大田：1972年3月6日；当山；H 40, 41, 149.

久米島，白瀬川：1973年2月22日；採集者不明；H 47.

渡嘉敷島産の標本は、部落内の生垣など樹木の多い所で多く採集された。久米島大田では、部落から離れた所にある公民館で採集されたが、同じ場所でホオグロヤモリも採集されている。

ホオグロヤモリ *Hemidactylus frenatus* DUMÉRIL et BIBRON, 1836

渡嘉敷島，渡嘉敷：1973年5月6日；当山；H 22, 35, 113.

渡嘉敷島，阿波連：1981年7月15日；当山；H 436.

渡嘉敷島：1980年10月24日；宮城；H 821, 822.

久米島，大田：1972年3月6日；当山；H 139.

久米島：1973年2月25日；採集者不明；H 33.

調査時の標本は、すべて家屋またはその近くで採集されている。

オンナダケヤモリ *Gehyra mutilata* (WIEGMANN, 1835)

渡嘉敷島：1980年10月24日；宮城；H 812.

マダラトカゲモドキ *Eublepharis kuroiwae orientalis* M. MAKI, 1930

渡嘉敷島，渡嘉敷：1971年5月9日；勝連盛輝；H 325.

渡嘉敷島，大谷林道：1981年7月15日（目撃）

久米島，大原：1965年4月14日；喜久里；H 9.

久米島，兼城：1966年4月14日；喜久里；H 8.

久米島, ガニマンロウアブ: 1972年11月28日; 下謝名松栄; H 3.

久米島, 白瀬川: 1982年9月18日 (目撃)

渡嘉敷島における夜間調査 (1981年7月15日) では、渡嘉敷部落の石垣が積まれた所でも見られた。特に、大谷林道ではたくさんの個体がみられた (Fig. 3)。久米島における1982年の調査では、夜間に白瀬川上流の渓流で発見され (Fig. 4)、また昼間に宇江城岳東側中腹にある宇江城観音堂付近で板の下に潜んでいるのがみられた。本種は天然記念物に指定されているので採集はしなかつた。久米島産のH 8は兼城部落の石垣から、H 9は採石場で、いずれも天然記念物指定以前に採集されている。



Fig. 3 *Eublepharis kuroiwae orientalis*
from Tokashiki-jima Island.

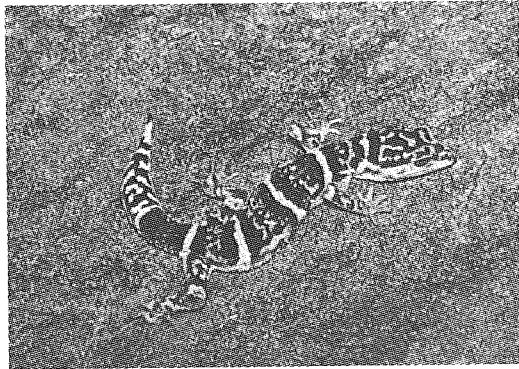


Fig. 4 *Eublepharis kuroiwae orientalis*
from Kume-jima Island.

キノボリトカゲ科 Agamidae

キノボリトカゲ *Japarula polygonata polygonata* (HALLOWELL, 1860)

渡嘉敷島: 1973年5月6日; 当山; H 187, 188. : 1983年3月29日; 佐藤; H 671, 672.

渡嘉敷島, 大谷林道: 1981年7月15日; 当山; H 437, 736.

久米島, 白瀬川: 1973年2月22日: 採集者不明; H 82.

: 1982年9月18日; 岩附信紀; H 451.

: 1982年9月18日; 黒住耐二 (以下黒住と略す); H 779.

: 1982年9月18日; 当山; H 780, 783. : 1982年9月18日; 佐藤; H 781, 782.

トカゲ科 Scincidae

バーバートカゲ *Eumeces barbouri* VAN DENBURGH, 1912

久米島, 白瀬川: 1982年9月18日; 当山; H 452. : 1982年9月18日; 黒住; H 453.

2個体は、宇江城岳の頂上に至る自動車道の途中から分かれて、白瀬川上流に向かう道の路傍で採集された。H 452は頭胴長36.5mmの雄、H 453は55.0mmの雌で尾は切れている。後鼻板は認められないが、胴中央部の体鱗列数は、H 452が20列、H 453が22列であり、バーバートカゲの標徴を多く備えているので本種と同定した。久米島産の2個体は、体鱗列の他に次の特徴が認められた。
①白色の背側線は中央から2番と3番目の鱗の間を通る。②黒色の背面基色が腹側面まで伸び、腹面は暗青色を呈する。③尾部背面中央部における黒色の背面基色の伸長度は、体長の約33%である (H 452)。

オキナワトカゲ *Eumeces marginatus marginatus* (HALLOWELL, 1860)

渡嘉敷島：1980年10月24日；宮城；H 823.

渡嘉敷島，阿波連：1981年7月15日；当山；H 430, 735.

久米島，宇江城岳：1977年4月2日；田中；H 569, 572.

渡嘉敷島では、渡嘉敷と阿波連部落を結ぶ山道、阿波連部落から南に伸びる山道でみられた。H 569 と H 572 とは、久米島宇江城岳の頂上部にある自衛隊基地内をはしる自動車道の路傍で採集されている（田中聰氏、私信）。

ヘリグロヒメトカゲ *Ateuchosaurus pellopleurus* (HALLOWELL, 1860)

渡嘉敷島：1971年3月9日；上原；H 56. : 1971年3月9日；名城満隆；H 101.

: 1971年3月9日；永村清；H 154. : 1971年3月9日；山内重憲；H 155.

: 1973年5月4日；当山；H 57. : 1973年5月6日；当山；H 152, 153, 156.

: 1981年7月15日；当山；H 431. : 1980年10月24日；宮城；H 813.

: 1983年3月29日；佐藤；H 677-684.

久米島：1973年2月25日；採集者不明；H 58, 99, 105, 106, 143.

久米島，白瀬川：1982年9月18日；当山；H 455. : 1982年9月18日；黒住；H 784.

カナヘビ科 *Lacertidae*

アオカナヘビ *Takydromus smaragdinus* BOULENGER, 1887

渡嘉敷島：1971年3月8日；上原；H 128, 129. : 1971年3月11日；伊沢；H 90.

: 1973年5月4日；当山；H 116-119. : 1973年5月5日；城間；H 70.

: 1980年10月24日；宮城；H 824, 825. : 1983年3月29日；佐藤；H 673.

久米島，仲泊：1972年2月25日；当山；H 69.

久米島，宇江城岳，ハブヒール：1973年2月21日；採集者不明；H 171-174.

久米島，白瀬川；1973年2月22日；採集者不明；H 167-169, 175-177.

: 1982年9月18日；当山；H 456, 785.

久米島：1973年2月25日；採集者不明；H 178-180.

メクラヘビ科 *Typhlopidae*

メクラヘビ *Ramphotyphlops braminus* (DAUDIN, 1803)

渡嘉敷島：1973年5月5日；池原；H 76.

久米島：1973年2月25日；採集者不明；H 331.

ヘビ科 *Colubridae*

アカマタ *Dinodon semicarinatus* (COPE, 1860)

渡嘉敷島：1976年7月4日；田中；H 589. : 1980年10月24日；宮城；H 811.

久米島：1956年9月10日；喜久里；*

ガラスヒバア *Amphiesma pryeri pryeri* (BOULENGER, 1887)

渡嘉敷島：1976年10月14日；田中；H 617. : 1983年3月29日；佐藤；H 668, 669.

久米島，ハブヒール：1973年2月25日；採集者不明；H 362.

リュウキュウアオヘビ *Entechinus semicarinatus* (HALLOWELL, 1860)

渡嘉敷島、大谷林道：1981年7月15日；当山；H 438.

久米島、白瀬川：1982年9月18日；当山；H 60.

キクザトサワヘビ *Opisthotropis kikuzatoi* (Y. OKADA et TAKARA, 1958)

久米島、白瀬川：1965年8月20日；採集者不明；H 5. 1982年9月19日；当山；H 665.

久米島で河川を含めて最も良い状態で自然が残っているのは白瀬川上流部であった。白瀬川の上流部近くには小規模のダムが施されている。ダムより下流とダムより上流との2か所に分けて調査し、ダムの上流ではいくつかの支流を調査した。ダムより下流は、ダム建設に伴う工事のためか河床には土砂が堆積して状態が良くなかった。ダムより上流にあるいくつかの支流は、開墾による土砂の流入によって、河床は土砂で覆われていた。宇江城岳山頂（自衛隊基地がある）に至る自動車道の東側にある一支流だけは自然状態が保たれていた。そこは、ダムから上がると緩やかな傾斜の流れが数百m 続き (Fig. 5)、山頂部に向かって急傾斜の小さな流れとなっている。これらの支流を

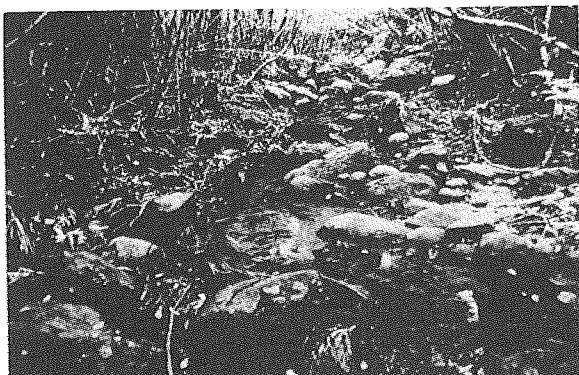


Fig. 5 Habitat of *Opisthotropis kikuzatoi* at the Shirasegawa River, Kume-jima Island.

昼夜調査したところ、1982年9月19日午前10時頃、自然状態の保たれた緩やかな傾斜の流れの中で本種が泳いでいるところを発見した。本種は、流れの中にある木の毛根の側で、流れに逆らって河床を泳ぎながら定位置を保っていた。約5m離れた所で観察していたが、人の気配で水中の毛根の中に潜りこんで隠れただけで捕獲した。H 5は、喜久里教達氏によって標本が当館に寄贈された。採集場所は、タイプ標本の採集地点と同じ白瀬川の上流 (Toyama, 1983b) で、同氏が学校に在職して

ていたころの生徒が採集したものらしい。キクザトサワヘビ (Fig. 6) は、これまで *Ophedrys* 属に含まれていたが、新たに検討した結果 *Opisthotropis* 属に属することがわかった (Toyama, 1983b)。この属の一つの特徴として溪流に生息していることがあげられる。それで、従来のキクザトアオヘビとされていた和名を本種の生態的な特徴に因んでキクザトサワヘビと改称した。また、*Opisthotropis* 属の和名が無いので、新しくサワヘビ属と呼びたい。

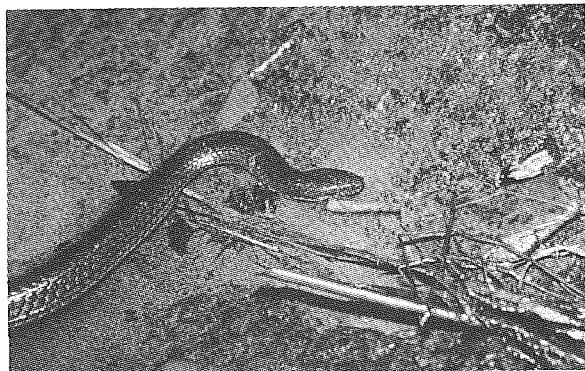


Fig. 6 *Opisthotropis kikuzatoi* from Kume/jima Island.

コブラ科 Elapidae

ハイ *Calliophis japonicus boettgeri* (FRITZE, 1894)

渡嘉敷島：1978年5月21日；田中；H 618.

久米島：1978年8月；新垣盛行；H 13.

久米島産の標本 H 13 は、当山 (1981) が報告したように、体背面の黒色横斑が完全に消失して5本の縦線のみを有する。

クサリヘビ科 Viperidae

ヒメハブ *Trimeresurus okinavensis* BOULENGER, 1892

久米島：1959年4月6日；喜久里；*

ハブ *Trimeresurus flavoviridis* (HALLOWELL, 1860)

渡嘉敷島，大谷林道：1981年7月15日（目撃）

久米島：1957年2月21日；高良鉄夫；*

渡嘉敷島の1981年7月の調査では、夜間大谷林道の路傍に現われたものを目撃した。久米島産の標本は、琉球大学農学部風樹館に保管されている17個体のうちの一つである。

調査結果の検討

これまでの調査研究の成果をもとにすると、渡嘉敷島・久米島に確実に分布していると思われる種類は、両生類6属7種、爬虫類16属18種である（Table 1）。以下、得られた結果に基づいて若干の検討を加える。

Table 1. Distribution of amphibians and reptiles on Tokashiki-jima, Kume-jima, the Okinawa Islands, Ryukyu Archipelago.

Species	Tokashiki-jima	Kume-jima
AMPHIBIA		
<i>Echinotriton andersoni</i>	+	-
<i>Cynops ensicauda</i>	+	-
<i>Rana limnocharis limnocharis</i>	+	+
<i>Rana catesbeiana</i>	+	+
<i>Babina holsti</i>	+	-
<i>Buengeria japonica</i>	+	+
<i>Microhyla ornata</i>	+	+
REPTILIA		
<i>Geoemyda spengleri japonica</i>	+	+
<i>Gekko japonicus</i>	+	+
<i>Hemidactylus frenatus</i>	+	+
<i>Gehyra mutilata</i>	+	-
<i>Eublepharis kuroiwae orientalis</i>	+	+
<i>Japarula polygonata polygonata</i>	+	+
<i>Eumeces barbouri</i>	-	+
<i>Eumeces marginatus marginatus</i>	+	+
<i>Ateuchosaurus pellopleurus</i>	+	+
<i>Takydromus smaragdinus</i>	+	+
<i>Ramphotyphlops braminus</i>	+	+
<i>Dinodon semicarinatus</i>	+	+*
<i>Amphiesma pryeri pryeri</i>	+	+
<i>Entechinus semicarinatus</i>	+	+
<i>Opisthotropis kikuzatoi</i>	-	+
<i>Calliophis japonicus boettgeri</i>	+	+
<i>Trimereurus okinavensis</i>	+	+*
<i>Trimeresurus flavoviridis</i>	+	+*

+: Found

-: Not Found

* from Takara (1962)

両生類

池原（1974a）によると、1965年3月28日にイボイモリが渡嘉敷島の国立青年の家北方の渓谷で下謝名松栄氏によって採集されている。今回もまた確認されたので、本種がこの島に分布しているのは確実とみられる。

シリケンイモリは、久米島では確認できなかった。これまでの記録を見ても、本種を確認したという報告は全く無い。地元の人に聞いても、見たことが無いという。おそらく久米島には分布していないと思われる。久米島は、最高地点 306.5m（宇江城岳）で、渡嘉敷島の最高地点 227m よりも高く、面積も渡嘉敷島より大きい。更に、水系も発達しているので久米島はイモリ類の生息できる条件は満たしていると思われるが、分布していないのが興味深い。

渡嘉敷島では、ウシガエルによるヌマガエルの極端な減少は無いように思われた。ウシガエルの生息地は渡嘉敷部落の近くにある水田地帯を中心とする地域に限定されているように見える。久米島では、山地の渓流にも生息地を広げている。ヌマガエルが容易に確認されないのは、ウシガエルの影響や水田のサトウキビ畑化などによって生息地を奪われ、本種が減少したことに起因する考えられる。

当山ほか（1983）は、ホルストガエルを渡嘉敷島より報告したが、その後1983年3月にも採集された。成熟した個体を含む渡嘉敷島産の変異の内容は未だ知られていない。

Johnson（1972）は、1965年3月の久米島滞在時にGima（儀間と推定される）の水田近くで、ナミエガエル *Rana namiyei* を採集したとしている。筆者は、1972年2月に同地点を夜間調査したがウシガエルしか確認できなかった。1982年の調査ではナミエガエルの分布の可能性を考慮し、沖縄島での同種の生息場所に似ている白瀬川の上流を注意して探したが発見できなかった。筆者の沖縄島における観察によると、ナミエガエルは山地の渓流でしか見られない。それで、Johnson（1972）が水田の近く（付近には生息に適した渓流は見当たらない）でナミエガエルを採集したというのには疑問が残る。

ウシガエルの久米島への移入は1953年である（池原、1974b）が、Johnson（1972）のリストには記されていない。ナミエガエルの体長はウシガエルのそれに近いので、Johnson（1972）のナミエガエルの記録はウシガエルの誤認とすることも可能と考えられる。しかしながら、Johnson（1972）は沖縄島におけるナミエガエルの生態（Johnson, 1969）と異なることを認めながら記録している。したがって、1965年には実際にナミエガエルがいた可能性もまた高い。1972年にはウシガエルにすみ場所を奪われて見当たらなかったのだろうか。今後の詳しい調査が必要である。

岡田（1930：175）は、“アオガエル *Rhacophorus viridis*” (=オキナワアオガエル *Rhacophorus viridis viridis*) の分布地として初めて久米島をあげている。しかし、分布表（第五表）には記されてない。Okada（1931）には本文中にも分布表にも久米島は掲載されていない。岡田・木場（1935）、Okada（1966）には分布地としてあげられている。また、Johnson（1972）もあげているが、採集記録はない。これらの文献は直接、または間接的に岡田（1930）を引用したものと推測される。このように、標本に基づく久米島からの確実な分布記録は今のところ無いが、緑色をしたカエルを樹上でみると地元の人々が話していたので、今後本種の出現期を考慮した調査が必要と考えられる。

爬虫類

城間伴氏（私信）によると、渡嘉敷島におけるハブ調査中によくリュウキュウヤマガメを見掛けとのことである。地元の人も生息していると話しているので、本種が分布しているのは確実と思われる。

バーバートカゲの分布域に今回新たに久米島が加えられた。今回採集された久米島産の2個体は、後鼻板を欠いている。沖縄島産の本種にも後鼻板を欠くのが約半分近くみられる（当山ほか、1973）ので、今後の調査によって、後鼻板を備えたものが久米島から採集されると思われる。

久米島では、バーバートカゲとオキナワトカゲの両種が宇江城岳で採集されている（Fig. 7）が、バーバートカゲは自然が残されている森林域でみつかっているので、両者はすみわけているものと推測される。

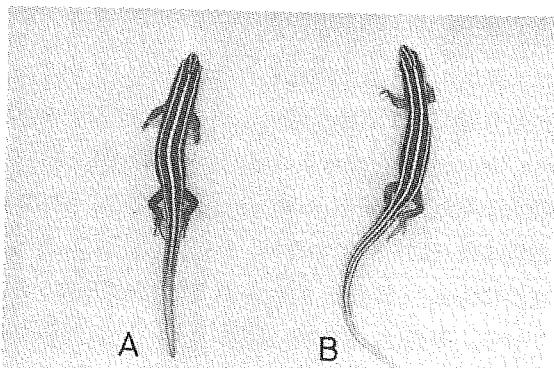


Fig. 7 Dorsal view of *Eumeces barbouri* (OPM H 452 : A) and *Eumeces margininatus marginatus* (OPM H 569 : B) from Kume-jima Island,

オキナワトカゲは、調査期間中に目撃した個体数は極めて少なかった。久米島には、1967年10月から1968年1月までの間に537頭のホンドイタチ *Mustela sibirica itatsi* が移入されており（Uchida, 1969）、座間味島や慶留間島の例（当山, 1983a）と同じくオキナワトカゲがイタチによって捕食され、減少したことは大いにありうる。

サワヘビ属の分布について、中国から東南アジアにかけて *andersonii*, *annamensis balteata guangxiensis*, *jacooi*, *kuautunnensis*, *lateralis*, *latouchii*, *maxwellii*, *pre-*

maxillaris, *spenceri*、スマトラに *rugosa*、ボルネオに *typca*、フィリピンに *alcalai* 等が知られている。本属が西アフリカから記録されていることについては、採集場所の誤認の可能性があるとされている（Pope, 1935）。本属に属する諸種の間には、頭部の鱗相（特に上唇板）に大きい差が認められる（浙江医科大学ほか、1980）が、キクザトサワヘビの上唇板数、および体鱗列数はサワヘビ属でも最少ない数値を示している。

キクザトサワヘビの採集地についてのこれまでの情報を整理すると、生活の場が渓流であるのは明らかである。渓流に生息するという特殊な生活様式を有するヘビ類は、国内では本種の他にみあたらない。しかしながら、生活の内容はほとんど知られていないので、今後、生態的な調査が必要である。

久米島全域の河川を注意深く調査をしたが、筆者の感じでは白瀬川以外にはキクザトサワヘビが生息している可能性のある川は無いようにみえた。また、白瀬川でも生息に適していると思われる場所は、全長1kmに満たない一支部しかなかった。これまでに得られたわずか3個体の標本が同一地点で採集されていることは、限られた生息地を裏付けるものである。絶滅の可能性は極めて高いと考えられるので、早急に適切な保護措置の取られることが望まれる。

謝　　辞

調査補助員として協力された佐藤文保、岩附信紀、黒住耐二の各氏に感謝する。現地の方々には間込み調査で協力していただいた。また、琉球大学名誉教授池原貞雄博士には、調査の援助をしていただいた。喜久里教達、城間伴、田中聰、宮城邦治の各氏には情報を提供してもらった。ほか貴重な標本を提供していただいた方々、そして本稿をまとめるにあたって御教示をいただいた大阪市立自然史博物館柴田保彦、京都大学松井正文、疋田努の各氏に感謝の意を表わす。なお、1982年度の調査は昭和57年度文部省科学研究費補助金奨励研究（B）No. 57917049によるものである。

文　　献

- 池原貞雄, 1974a. 慶良間群島 の陸上脊椎動物. 沖縄海岸国定公園拡張候補地学術調査報告: 187-199. 沖縄県.
- 池原貞雄, 1974b. 久米島の陸上脊椎動物. 沖縄自然研究会調査報告第1号, 久米島県立自然公園候補地学術調査報告: 89-98. 沖縄県.
- Johnson, C. R., 1969. Herpetofauna of Okinawa, Ryu Kyu Islands. *Herpetologica* 25 (3) : 206-210.
- Johnson, C. R., 1972. Notes on the Herpetofauna of Kume-jima and O-jima, Ryu Kyu Islands. *Atoll Res. Bull.*, (162) : 7-8.
- Okada, Y., 1927. A study on the distribution of tailless batrachians of Japan. *Annot. Zool. Japon.*, 11 (2) : 137-144.
- 岡田弥一郎, 1930. 日本産蛙総説. 岩波書店, 東京.
- Okada, Y., 1931. The tailless batrachians of the Japanese Empire. *Imp. Agric. Exper. Stat.*
- Okada, Y., 1966. Fauna Japonica: Anura(Amphibia). *Biogeogr. Soc. Japan.*, Tokyo.
- 岡田弥一郎・木場一夫, 1935. 沖縄島及びその近接島嶼の脊椎動物目録. 沖縄博物学会会報, 1 : 3-22.
- Pope, C. H., 1935. The reptiles of China. *Natural History of Central Asia*, 10. Amer. Mus. Nat. Hist., New York.
- 高良鉄夫, 1962. 琉球列島における陸棲蛇類の研究. 琉球大学農家政工学部学術報告,(9): 1-202.
- 高良鉄夫(編), 1972. 風樹館要覧=付展示物目録=. 琉球大学農学部, 80p.
- 当山昌直, 1981. 沖縄群島の両生爬虫類相(I). 沖縄県立博物館紀要, (7) : 1-8.
- 当山昌直, 1983a. 沖縄群島の両生爬虫類相(II), 一座間味村の両生爬虫類一. 県立博物館調査報告書III一座間味村(ざまみそん)一, 16-22.
- Toyama, M., 1983b. Taxonomic Reassignment of the Colubrid Snake, *Opheodrys kikuzatoi*, from Kume-jima Island, Ryukyu Archipeago. *Jpn. J. Herp.* 10 (2) : 33-38.
- 当山昌直・前田敦・小浜継雄, 1973. 沖縄本島のバーバートカゲについて. 琉球大学生物クラブ誌, 12 (1) : 1-8.

- 当山昌直・城間伸・佐藤文保, 1983. ホルストガエルの渡嘉敷島からの記録. AKAMATA,(1):3.
- Uchida, I., 1969. Rat-control procedures on the Pacific island, with special reference to the efficiency of biological control agents. II. Efficiency of the Japanese wasel, *Mustela sibirca itasi* Temminck & Schlegel, as a rat-control agent in the Ryukyus. J. Fac. Agr. Kyushu Univ., 15 (5) : 355-385.
- 浙江医科大学・中国科学院成都生物研究所・上海自然博物館・浙江省中医研究所(編), 1980.
中国蛇類図譜. 上海科学技術出版社, 上海.